

長池によみがえった湿生植物

2019年秋から2020年にかけて実施した長池かいり後、池底の土からジュンサイやヒルムシロ、ミズユキノシタなど、多くの水生湿生植物が復活しました。今年になってから新たに発生・開花した植物も加えると、その数は30種にもなります。これらの中から、いくつか特筆される植物をピックアップしてご紹介します。一部の植物は、長池公園自然館の中庭テラスでも保護栽培していますので、ご来館の際はぜひ実物もご観覧ください。

『ひとまちみどり由木』が管理する81ヶ所の公園には、多様な動植物が暮らしています。このコーナーでは、管理作業や巡回の折に出会った動植物について、その際に撮影した写真とともに紹介していきます。

ジュンサイ

(ジュンサイ科)



東京都では既に絶滅状態 (EW) となっている浮葉性の多年草。長池でも実に61年ぶりの復活となります。若芽は食用として広く知られています。

ヒルムシロ

(ヒルムシロ科)



ため池や水田に稀に生育する浮葉性の多年草。東京都の絶滅危惧ⅠB類 (EN) に指定されています。ジュンサイ同様、長池では61年ぶりに姿を現しました。

ヒメミクリ

(ガマ科)



ため池や水田で稀に見られる抽水・湿生の多年草。環境省の絶滅危惧Ⅱ類 (MU) に指定されており、長池での発生は初めて確認されました。密に群落を作っています。

ミズユキノシタ

(アカバナ科)



ため池の水辺や湿地に生育する希少な多年草。東京都の絶滅危惧ⅠA類 (CR) に指定されており、長池では61年ぶりに復活を遂げました。マット状に株を広げ、葉の付け根にごく小さな緑色の花が咲きます。

アギナシ

(オモダカ科)



自然度の高い湿地に生育する抽水・湿生の大型多年草。環境省の準絶滅危惧 (NT)、東京都の絶滅危惧ⅠA類 (CR) に指定されています。長池ではハンノキ林にわずかに現存しますが、埋土種子からも発芽が確認され、2年目に開花しました。

トウゴクヘラオモダカ

(オモダカ科)



湧水湿地や休耕田に生育する抽水・湿生の大型多年草。環境省の絶滅危惧Ⅱ類 (MU)、東京都の絶滅危惧ⅠA類 (CR) に指定されています。長池ではハンノキ林にわずかに現存しますが、埋土種子からも発芽が確認され、うち13個体が開花しました。

ホシナシゴウソ

(カヤツリグサ科)



全体に大型となるゴウソの変種で、母種とは果胞表面に乳頭状突起がなく鮮緑色であることから区別できます。東京都の絶滅危惧ⅠA類 (CR) に指定されている大変希少なものです。

コマツカサスキ

(カヤツリグサ科)



丘陵地の湿地に生育する抽水・湿生の大型多年草。東京都の絶滅危惧ⅠB類 (EN) に指定されています。ハンノキ林にわずかに現存しますが、埋土種子からも発芽が確認され、2年目に一斉開花しました。